

今月のテーマ
ケネディ大使

田上市長の
恋とトコ
 ~自らの思いを皆さんに語るコラム~

キャロライン・ケネディ前駐日米国大使が、3年あまりの任期を終え、帰国されました。在任中、長崎に来られたのは四度。毎年一度ずつ、長崎を訪れてくれたことになりました。

ケネディ大使(当時)の最初の長崎訪問は平成25年12月。友好の木として米国政府から贈られたハナミズキの植樹式で、就任からひと月もたない時期でした。その時のエピソードを二つご紹介します。

平和祈念像前で献花した後、大使はそのまま平和公園内の記念植樹会場に移動する予定でした。でも、歓迎する市民の列を見た大使が「あちらに行ってもいいですか？」と列の方を指さされ、列に沿って市民のみなさんとあいさつや握手をしながらの移動になりました。笑顔で握手をしながら歩く大使を見ながら、親しみやすい人柄を感じました。

もつ二つ印象的だったのは、その時、市民のみなさんからかけられた言葉です。圧倒的に多かったのが「ありがと」でした。大使の訪問と献花を受けて市民のみなさんがかけてくれた言葉は、きつと大使の心

に届いたと思います。長崎らしくていい光景だなと、とてもうれしく感じたのを覚えています。

二度目と三度目は平和祈念式典への参列でした。前任のルース大使が駐日米国大使として初めて参列して以来、二人目の参列でした。この時は多くの来賓が見えるので、ゆっくりお話をする時間はありませんでした。少し控えめに参列しておられる姿が印象的でした。

そして四度目は、昨年の秋です。長崎東高校を訪問した後、公会堂前広場で「くんちの夕べ」を観てもらいました。滞在予定は1時間。2カ町の奉納踊りをご覧になる予定でしたが、途中で「次の上町の出し物は今年初めて登場するものです。とても観どころのある出し物なので、ここまで観ていきませんか？」と勧めたところ、「もう少ししょう」と滞在時間を延ばしてくれました。「もうちょっと」の掛け声も何度もかけてくれ、会場の盛り上がりは最高潮。帰りには

また、観客の求めに応じて握手してくれました。ケネディ大使と最後にお会いしたのは、今年の1月6日です。くんちの思い出を語った後、「実はこれを渡したかったのです」と手渡してくれたのは、オバマ大統領(当時)が自ら折った2羽の折り鶴でした。「大統領から長崎のみなさんに」と。



昨年、オバマ大統領が、米国の現職大統領として初めて被爆地・広島を訪問しました。この歴史的な訪問が実現した背景には、ケネディ大使の存在がありました。長崎への訪問についても、ケネディ大使は勧めたかと思えます。残念ながら実現しませんでした。被爆地・長崎に寄せる思いを折り鶴が運んでできてくれました。近い将来、オバマ前大統領の長崎訪問が実現することを願っています。

駐日米国大使は難しいポジションです。私は大使と会うたびに、立場を超えて、人としての平和への思いとともに、長崎に寄せてくれる温かい気持ちを感じました。感謝とともに、キャロライン・ケネディさんの帰国後のご健康とご活躍をお祈りします。

また、観客の求めに応じて握手してくれました。ケネディ大使と最後にお会いしたのは、今年の1月6日です。くんちの思い出を語った後、「実はこれを渡したかったのです」と手渡してくれたのは、オバマ大統領(当時)が自ら折った2羽の折り鶴でした。「大統領から長崎のみなさんに」と。

オバマ大統領からの折り鶴については26ページに関連記事を掲載していますのでそちらもご覧ください。



ながさき
フチ旅行
 異国情緒漂う
ドンドン坂

「大浦天主堂下」電停から歩いて約10分、南山手の住宅地にある百十メートル程の坂。雨が降ると、古い石畳の脇にある溝を雨水がドンドン音をたてて流れることから、その名がついたといわれる。溝の形は水流を調整するため、坂の上部(U字)・中部(三角)・下部(四角)で変える工夫がなされている。

坂の周辺には明治期に建てられ、今も個人宅として使われている洋館が数軒ある。居留地時代のものと思われる石垣や欄干、石標柱なども残っており、当時の風情を感じられる。坂を上って振り返ると、坂の延長線上に長崎港と、造船所の巨大なクレーンが見える。長崎らしい雰囲気を感じ、静かに楽しめる、味わい深い坂である。